

よりだよ寺福廣

29号



落慶一周年

平成十二年九月三日の広福寺本堂庫裏落慶法要から、今年の九月で一周年になりました。ここに至るまでの皆様方の変わらぬご支援に心より感謝を申し上げます。

浄土真宗の寺は、仏法と共に聞く聞法（もんぼう）の道場です。

皆様方とともに、仏法を、わたし自身の中に明らかにしていく場を、この新本堂につくりあげて行くことが、何よりも大切なことと考えております。

本年四月から、聞法会とお経会を毎月交互に月末の週に開いております。始めたばかりですが、皆様方のご参加をお待ちしております。

偶数の月はお経会です。

「舌々正信偈」「三誓偈」など、毎日のお内仏のおつとめのお経の練習を中心にしております。

奇数の月は聞法会です。

「ゼロからの仏教」をテーマにしています。月潟村梵行寺の木村俊尚師から、「正信偈」の内容を中心に「家族」をサブテーマにして身近なわかりやすいお話を例にあげながら、進めていただいております。

平成13年度寺勧金決算書

<収入の部>

科 目	予 算 額	決 算 額
勧 金	2,500,000	2,548,000
雑 収 入	20,000	9,303
繰 越 金	14,628	14,628
計	2,534,628	2,571,931

<支出の部>

科 目	予 算 額	内 訳
1. 寺務経常費	2,407,104	
(1)負担金	811,160	本山護持金 704,410(広福寺 548,155・心光寺 156,255) 教区費 26,750(広福寺 21,400・心光寺 5,350) ともしひ代 24,000 光寿堂維持管理費 6,000 本山御供米料(本山御正忌報恩講) 50,000
(2)事務通信費	102,711	複写機部品代 31,290 用紙代・領収書 16,291 切手葉書 55,130
(3)会議費	142,370	世話方會議 49,070・総代会議 93,300
(4)教化費	353,500	広福寺だより(落慶記念カラー8ページ) 84,000 とびら増刷代 70,000 本山御使僧様法札 50,000 聞法会 70,000 広大会 30,000 カレンダ一代 49,500
(5)営繕管理費	836,363	火災共済(広福寺 230,000 心光寺 30,600) 電気代 150,000 灯油 22,396 剪定・冬廻い 192,715 除雪 64,837 本堂ストーブ 78,750 喚鐘撞木・安全ろうそく 16,800 香 34,830 修理 15,435
(6)門徒交際費	161,000	御本尊下付(3軒) 96,000 火事・近火見舞(8軒) 65,000
2. 積立金	150,000	書院雨樋付け替え積立金 150,000
計	2,557,104	

総収入 2,571,931 - 総支出 2,557,104 = 14,827(次年度へ)

平成14年度寺勧金予算書

<収入の部>

科 目	予 算 額
勧 金	2,500,000
雑 収 入	10,000
繰 越 金	14,827
計	2,524,827

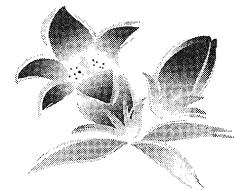
<支出の部>

科 目	予 算 額
寺務経常費	2,500,000
事業費	0
予備費	24,827
計	2,524,827

一万円の勧金

昨年から一戸あたり一万円の勧金とさせて頂いております。未納の方は、おそれいりますが十一月中をめどに納入して頂きます。

二千円の「広福寺墓地管理費」を同時に納入いただける方はよろしくお願ひいたします。



◆ 広大文庫

「広大文庫」(こうだいぶんこ)

仏教書・小説・絵本・児童書・教育マンガなど一千冊余りがあり、どんどん補充中です。広福寺の門信徒に限らず、広く地域の皆様に開放させていただいております。子どもも大人もどなたでも、いつでも、ご利用下さい。貸し出しは三ヶ月以内をメドにしておりましたが、記名等は必要ありません。児童書など、ご寄進いただければ幸いです。皆さんと一緒に創りあげていく文庫を目指します。

「聖の青春」 大崎善生
「運命の足音」 五木寛之
「にんげんだもの」 相田みつお
「河童が覗いたインド」 妹尾河童
「かぎりなくやさしい花々」 星野富弘
「日本人の不安を精神分析する」 岸田
「ダンス・ダンス・ダンス」 村上春樹
「イチロー・インタビュー」 小松成美
「悪魔のバス天使のゴー」 村上 龍
「仕切り直しの巡礼」 富田富士也

◆ マンガ

「どんぐりの家」 山本おさむ
「家栽の人」 魚戸おさむ
「はだしのゲン」 中沢啓治
「元気くん」 北見けんいち
「サバイバル」 さいとうたかお
「マタギ」 矢口高雄
「少年時代」 藤子不二雄

◆ 小説等

「せんせいけらいになれ」 灰谷健次郎
「はじめてのおつかい」 林明子
「すてきな三にんぐみ」 トミー・アンゲラ
「おおきなかぶ」 佐藤忠良
「そらいろのたね」 中川李枝子
「かいじゅうたちのいるところ」 センダック
「木を植えた男」 ジャン・ジオノ
「ほくらはどう生きるか」 宗田理
「ひろしまのピカ」 丸木俊
「わかつたさんのドーナツ」 寺村輝夫
「クレヨン王国とんでもない虹」 福永令三
「子どものための世界名作文学」 集英社



「シリーズあらしのよるに1~8」 木村裕一

「せんせいけらいになれ」 灰谷健次郎

「モモ」 ミヒヤエル・エンデ

「はじめてのおつかい」 林明子

「すてきな三にんぐみ」 トミー・アンゲラ

「おおきなかぶ」 佐藤忠良

「そらいろのたね」 中川李枝子

「かいじゅうたちのいるところ」 センダック

「木を植えた男」 ジャン・ジオノ

「ほくらはどう生きるか」 宗田理

「ひろしまのピカ」 丸木俊

「わかつたさんのドーナツ」 寺村輝夫

「クレヨン王国とんでもない虹」 福永令三

「子どものための世界名作文学」 集英社

◆ 仏教書

「本願力 まことに遇う」 藤田徹文
「信じるものはなぜ救われないのか」 日野英宣

「仏弟子に学ぶ―逸話に聞く仏教」 内藤昭文

「悲しみからの仏教入門」 平野修

「民衆の中の親鸞」 田代俊孝

「親鸞」 丹羽文雄

「慈悲の仏道」 小川一乗

「歎異抄のこころ」 高史明

「おおきなかぶ」 佐藤忠良

「そらいろのたね」 中川李枝子

「かいじゅうたちのいるところ」 センダック

「木を植えた男」 ジャン・ジオノ

「ほくらはどう生きるか」 宗田理

「ひろしまのピカ」 丸木俊

「わかつたさんのドーナツ」 寺村輝夫

「クレヨン王国とんでもない虹」 福永令三

「子どものための世界名作文学」 集英社

◆ 児童書

「シリーズあらしのよるに1~8」 木村裕一

「せんせいけらいになれ」 灰谷健次郎

「はじめてのおつかい」 林明子

「すてきな三にんぐみ」 トミー・アンゲラ

「おおきなかぶ」 佐藤忠良

「そらいろのたね」 中川李枝子

「かいじゅうたちのいるところ」 センダック

「木を植えた男」 ジャン・ジオノ

「ほくらはどう生きるか」 宗田理

「ひろしまのピカ」 丸木俊

「わかつたさんのドーナツ」 寺村輝夫

「クレヨン王国とんでもない虹」 福永令三

「子どものための世界名作文学」 集英社

来年 平成15年年忌表

1周忌	平成14年	33回忌	昭和46年
3回忌	平成13年	37回忌	昭和42年
7回忌	平成 9年	50回忌	昭和29年
13回忌	平成 3年	100回忌	明治37年
17回忌	昭和62年	150回忌	安政元年
23回忌	昭和56年	200回忌	文化元年
27回忌	昭和52年	250回忌	宝暦 4年

年忌法要を通し、仏法のご縁に出遇い、
いのちのご縁に出遇いましょう

長崎地区の総代の松井和弥氏が昨年
十二月に往生されました。本堂庫裏再
建の計画時から大変ご尽力を頂き心か
ら感謝いたしております。後任として
本年から松井辰義氏にお引き受け頂き
ました。よろしくお願ひいたします。

長崎地区総代



広大会おつとめ

まさに光陰矢のごとし、を実感しています。た
だ、最近よくお話をすることですが、なくなつた
方は決して無にはならないということを感じます。
身近に生きている間はぶつかり、すれちがうのが
煩惱の身を持つ悲しさですが、その人と別れてか
ら、かえつてその人の声が、願いが、よく自分の
身に響いてくるということが解つてきました。
往生されました。

花びらが散りはてた季節でも私のこころの中に
いつでも満開の花の姿が浮かぶように、人は去つ
ても私たちはお念佛の響きの中に、いつでもそ
人の願いを聞き、面影を思い浮かべることができ
るのです。

お念佛の中に聞こえてくるのは、「ご縁のなか
に生まれている私自身のいのちの輝きに目覚めな
さい」という呼び声です。

人は去つても
面影は去らない
花びらは散つても
花は散らない

